



<2020年12月号>

162号 2020.12.01 配信

11月9日に挙行された昭和女子大学創立100周年記念式典には、たくさんの同窓生が参加しました。100年前に地にまかれた一粒の種に込められた創立者の思いは、みごとに成長し、葉を広げ、豊かな実りとなって次世代に受け継がれてきました。100年の歳月には嵐や日照りの日もあったことでしょう。それでも前進し続けた学園に集う者として、新しい春を心待ちにしつつ今こそ前を向いて一步一步確実に進んでいきたいものです。

皆様がお健やかに新年をお迎えになりますことを、心よりお祈り申し上げます。

■同窓会だより

◆第47回光葉同窓会総会

11月21日(土)11時から大学10号館光葉同窓会研修室で開催いたしました。今年は規模を縮小し、議事のみを行いました。会長挨拶に続き、2019年度活動報告・決算報告、監査報告、2020年度活動計画・予算案について可決されました。

◆光葉同窓会奨学金授与式 (13名)



光葉緑奨学金授与式を学生さんの対面授業に合わせ2回(11月20日、24日)に分けて実施、オンライン授業で登校されない学生さんには郵送させていただきました。

◆同窓会年末年始休業 12月22日(火)から翌年1月11日(月)

■学園だより

◆昭和女子大学創立100周年記念式典

創立100周年記念式典が11月9日(月)11時から人見記念講堂において厳かに執り行われました。人見楳子名誉理事長からの映像と祝辞、卒業生で、歌人の馬場あき子氏が記念スピーチをされました。席上、光葉同窓会が特別功労章をいただきました。



◆2020年度 第28回秋桜祭

今年度のテーマは「舞-100×2020-」、11月21日~22日オンラインで開催されました。学科やゼミ、プロジェクト、クラブ・サークル、有志、テンプル大学ジャパン(TUJ)などが動画やリアルタイム配信で実施、光葉同窓会も有志として動画参加しました。

◆THE Awards Asia2020で最終選考候補に選出

昭和女子大学のスーパーグローバルキャンパスの取り組みが、世界大学ランキングを行うTimes Higher Educationによる「THE Awards Asia 2020」の「国際戦略部門(International Strategy of the Year)」で、日本の大学として唯一最終選考候補に選出されました。最終発表では惜しくも大賞を逃しましたが、アジアや中東の大学とならんでノミネートされたことは、昭和女子大学のグローバル教育が世界レベルにあることを示しました。(昭和女子大学HPより)

広げよう光の葉

高橋 典子 さん

1977年 英文学科卒

「習慣」が貴女になる

「もう一度グランドキャニオンが見たいです。」と自己紹介をする仲間たちと一緒に英文科に入学した道産子はいつもおどおど、人前に出るのが苦手でした。「君が私に敬意をもって挨拶してくれるのは分かるけれど、言葉で表現しなきゃ伝わらないこともあるんだよ。」と、頭だけびよこんと下げる私に言葉を発する大切さを教えてくださった先生には、今でも感謝しています。そんな私が母校で仕事をさせていただき、新しいこと、知らないこと、初めてのことにエイッと飛び込ませてくれたのも、職場である昭和女子大学でした。

図書館司書というと、「〇日までにお返してください。」のイメージで「好きな本が読めていいわね～」と言われることが多いですが、実際はそんな静かな仕事ではなく、学科カリキュラムに沿った資料集めや授業の一部として基礎ゼミを担当するなど、口下手や引っ込み思案のまま務まる職場ではありませんでした。学習支援にとどまらず、学生さんたちと協同で取り組める選書ツアー、インターンシップやビブリオバトルなどの企画イベントはありがたい経験でした。40歳半ばで進路支援センター（キャリア支援センターの前身）へ異動した時は、個人的にも二人の娘を抱える覚悟をした時期でもありました。就活経験もない私がキャリアに関わることはできないと考え、GCDFキャリアカウンセラーさらに国家試験のキャリアコンサルティング技能士の資格が取れたのも、向き合っている仕事のおかげであり、いい仲間たちがいたからです。そして、私自身が年齢や状況を言い訳にしたり、人のせいにしてりせず、新しい扉を叩いてきたからだと思っています。

私がキャリアカウンセラーとして学科でお話をさせていただく時、いつも学生さんに伝えていた言葉が「習慣が貴女になる」でした。毎朝歯磨きをし、顔を洗い、髪を梳くように、不得手なことでも、毎日の習慣として重ねていくうちにだんだん何とかできるようになる。大好きではない、得意ではなくても、できることが増えることは自信になる、そんな自分はきっと何があっても何とかする、何とかできる自分になっていく。仕事を通して母校が私に教え続けてくれたことです。いつも小さくなって人の後ろに隠れていた自分が、前を向いて話せるようになっていく。少しずつでも頑張っ習慣にしていたことが、いつの間にか無理のない自分の姿になっている「習慣が貴女になる」。

退職後、さて何をしようかな？と考えて、一人旅することにしました。大好きな尊敬する先生が専門とするバルト三国への2週間の旅。先生はどうして興味を持たれたのだろう、なぜ研究テーマに選んだのだろう、それなら私も見てみたい、知りたい…と。本当に人の縁とは不思議なものです。リトアニアとエストニアの2か所で偶然出会った日本人旅行者が「私の同僚にならない？貴女に合っていると思う」と勧めてくれた第二の人生を今、私は歩き始めています。大学在職中、子育てが落ち着いた時期に通信教育で学び直し、学位を取得していたことも後押ししてくれました。60歳の手習いには無謀な単位をとり、日本語教師として外国の青年たちと過ごしています。日本語を教えながら大学進学、専門学校、就職と進路を決める留学生に履歴書や面接練習をしています。思えば、私が昭和女子大学で仕事をさせていただき、生きて来た道で活かされないことは一つもありません。明日もまた明後日もまた、と歩き続けたらどんなふうにも生きられるような気がしています。 【end】